## 令和5年度 学校自己評価表 (計画段階)・実施段階)



福岡県立宇美商業高等学校長 印

			学校運営	計 画 (4月)				評価(3月)	
学 校 運	営 方 針	高い志を持ち、自らの目標	に向け意欲的に挑戦して	いく生徒を育成するとともに、地域	ずで必要と	とされる	学校となる。		
昨年度の成果と課題 年 度 重 /			点 目 標	具体的目標					
昨年度の成果としては、周年行 事をはじめ、新商品発表イベント		専用州の宣い極楽した体の代目	三元 動ぶ ス 学 羽 並 圧 の ゆ 寺	実社会で求められる新しい知識や技術を理解し、今までの指導に執着しない新しい指導方法 を検討及び実施する。					
や体育祭、宇美商フェスタ等で生		専門性の高い授業と生徒の成長に繋がる学習評価の確立		観点別評価と学力向上の関係性の検証を行い、フィードバックの質の向上を図る。					
徒主体の学校行事を行うことがで きた。また、生徒会を主体とした				授業アンケートの項目の見直しを行い、指導と評価の一体化に繋がる授業研修を実施する。 いじめを見逃さない許されない環境をつくり、安心安全な学校を目指す。					
「校則の見直し」を地域や保護 者、企業、大学等から協力を得て		厳しく楽しく充実した学校生活の実現		生徒の自己有用感を高めることができる「新しい学校づくり」を進め、オリジナル性の高い 教育活動を実施する。					
実施することができた。今年度以降も継続していきたい。 課題としては、一昨年度から特				強化部活動を中心に、生徒が主体的に活動を促す場面を設定し、周囲の生徒を巻き込んだ取り組みに発展させていく。					
課題としては、 色選抜に入試の変				生徒のアセスメントを正しく行い、個別量					
志願倍率が伸びなかった。志願倍率向上のためにも本校生徒にとっ		   背伸びして工夫することで手が	が届くストレッチ目標の達成	先進的な取り組みを行っている学校を視察 方について職員研修を実施する。					
て魅力ある学校となるよう研修会 等参加による教員のスキルアップ				生徒が設定した自己表現の目標について、 を分析し、課題解決に向けて適度に介入を					
を図り、新たな価値の創造ができる体制を確立する。また、昨年度から引き続き退学者等を出さない生徒に寄り添った取り組みを進め		心理的安全性の高い職場環境の構築		小委員会で業務に取り組むことで、誰もか会議等では、ファシリテーターが建設的な プロフェッショナルとしてのチーム力の向					
る。	こ取り組みを進め			働き方改革を進めることで、ワーク・ライ質を維持・向上させる。	「フ・ハフ、	ンスの取れ	1た生活を美規し、字仪教育の		
評価項目	具	体 的 目 標	具	体 的 方 策	評 価(	3月)	次年度の主な	果題	
			タブレット等を用いたICTの活用において、校内での実践の蓄積と検証結果の共有を図る。 『IT・少人数指導等を充実させ、質問を受ける時間や生徒の発表の機会を設ける。						
	実施する。	/ないがしい。自等力伝を限的及し、		じて、個別指導に力を入れるための時間を設定する。					
	親去即逐年上学力点	しの即反性の於証も行い	観点別評価の方法、成績処理等に関	する研修を行い、円滑な運用を行えるようにする。		1			
教務	観点別評価と学力向上の関係性の検証を行い、 フィードバックの質の向上を図る。 授業アンケートの項目の見直しを行い、指導と評価の一体化に繋がる授業研修を実施する。			会を定期的に行い、活発な意見交換ができるようにする。					
			3つの柱をバランスよく総合的に目指した内容を、学力向上の視点から随時検証する。 定期的に授業アンケートを実施、検証し、指導力向上のためのPDCAサイクルを確立させる。						
			定期的に授業アンゲートを実施、模証し、指導刀向上のためのPDCAサイクルを確立させる。 授業担当者の課題やニーズに応じた研修会を、外部講師や校内での人材を活用して企画する。						
			授業評価の内容を取り入れた研究授	業を実施し、各教科の指導と評価の参考にする。					
	いじめを見逃さない許されない環境をつくり、安心 安全な学校を目指す			行い、生徒が訴えやすい環境を整え、問題を早期に発見する。					
			が犯教室やネット非行防止教室を通じて、最新の事象を取り上げ、未然防止教育を充実させる。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図り、生徒の発達段階に応じた支援体制を充実させる。						
	<b>上往の立コ</b> 右田成ま	- 古みファレボズキス「年1 11 円				-			
生徒指導	生徒の目己有用感を高めることができる「新しい字 校づくり」を進め、オリジナル性の高い教育活動を 実施する。		委員会を活用し、役割や業務を行う場面を設定することで、異年齢交流の機会とする。 生徒会が主体となって地域や関係各所と連携を図り、生徒の意見を反映しながら、時代に即した校則になるよう見直しを行う。						
77,611.44			研修や行事を通じてリーダーを育み、学校行事や委員会活動を生徒主体の取り組みができる場面を設定する。						
	強化部活動を中心に	、生徒が主体的に活動を促す場	大会日程や大会結果を公開することにより、	部活動生徒以外の関心を高め、部活動生徒の向上心を高める。		7			
			発 各部活動の活動内容を、チラシやアナウンスによって周知し、部活動の加入を促進する。						
			定期演奏会や宇美商フェスタなどの発表で保護	者が参観できる体制を整え、生徒の取り組む姿勢と態度を養う。					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価(3月)		月)	次年度の主な課題
-		進路希望調査および個人面談等を通して、生徒一人ひとりの進路希望を把握する。				
	生徒のアセスメントを正しく行い、個別最適な指導	進路・担任合同会議を定期的に行い、進路指導課と学年及び教科との連携を強め、生徒の進路情報の共有を図る。		1		
	方法を検討する。	生徒のニーズに、より対応した「キャリア教育」(年6回)を実施する。		1		
	先進的な取り組みを行っている学校を視察し、進路	課外授業(朝課外授業・放課後課外授業・土曜進学セミナー等)を実施し、生徒の学力向上と資格の取得に努める。				
		・ 企業や大学・専門学校等との連携を深め、地元に貢献できる人材の育成を目指す。		1		
	職員研修を実施する。	企業訪問を積極的に実施し、新規企業開拓を推進する。		Ī		
	生徒が設定した自己表現の目標について、学校行事等の事前事後のアンケートから達成状況を分析し、	学年集会・進路別説明会等の内容を充実させる。				
	課題解決に向けて適度に介入を行う。	「キャリア・パスポート」を活用し、生徒の自己理解を深め、進路意識を高める。				
	専門性の高い授業を受けるための基礎的学力の育成	授業→スタディサプリを用いた復習という学習スタイルを確立し、主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。				
	専門性の高い技業を受けるための基礎的子力の育成   を図る	スタディサポートを用いて学習状況の継続的調査を行い、教科担当者と共に個に応じた学習支援を行う。				
	[ C [ ] 2	資格試験において個々の実力に少し背伸びした得点での合格を目指させる。				
		学校行事、部活動、委員会活動、ボランティア活等において、個々人が成し遂げた事への頑張りを認めることで自己有用感を高める。				
第1学年		学校行事、部活動、委員会への積極的参加を促し、集団内でのコミュニケーション力を高めさせる。				
	安心安全な学級経営を目指す	多様な問題を抱えた生徒に対応するため、養護教諭、スタールカウンセラー、教科担当等と情報を共有し、アセスメントを行い、有効な関わり方や支援を複数人で行う。				
		いじめは起こりうるとの認識を持ち、いじめられている生徒が出すサインを見逃さない。		7		
		高校生活をより充実したものとするために、部活動への加入・継続を促す。				
	自分自身の進路について調べ、考えた上で、学科・	キャリアガイダンスや進路講演会、大学見学等を通して生徒が自分の進路を考えるきっかけを作る。				
	類型を選択させる	生徒の適正・能力や面談で得た生徒の希望進路からアセスメントを行い、進路に沿った学科選択をアドバイスする。		1		
	実社会で求められる新しい知識や技術を理解するために、自ら課題を発見	個に応じた学習支援の機会を増やすことで、目標を具現化させ、主体的に学習する姿勢を育てる。		-		
	し、自ら学び、高い目標に挑戦する生徒の育成を図る。	探求的な学習や恊働的な学習を多く取り入れることで学習意欲を刺激し、自ら学び、考える力を育成する。				
	自律の心を身に付けた逞しい生徒の育成を図る。	TPOをわきまえた挨拶や振る舞いが自分で考えてできるよう、自律の心を育てる。				
第2学年	日年の心を身に行りた连しい主体の自成を図る。	大目標と、それに基づく中・小の目標を立てさせ、粘り強く取り組む逞しさを身に付けさせる。		1		
<b>第 △ 子</b> 平	進路意識の高揚を図り、自己の進路実現に資する能	修学旅行やインターンシップを通して職業観・勤労観を育成し、進路目標に繋げさせる。				
	力の育成を行う。	進路に関する調べ学習や計画的な面談、アセスメントを行うことで、高い進路意識を育成する。				
	誇りと意欲をもつ生徒の育成を図る。	部活動や学校行事、校外行事に積極的に参加させ、地域貢献を奨励し、学校への帰属意識を高める。				
	時りと息似をもう生体の自成を図る。	失敗を糧として感動体験や成功体験を味わわせる場面を設定し、自己肯定感を高める。				
		希望進路に応じた効果的な進路指導を行うため、個人面談や三者面談を充実させるとともに進路指導部及び保護者と綿密に連携を取る。				
	職業観・勤労観をさらに向上させ、第1進路希望 (進学・就職) 実現を目指す。	進学先・就職先とのミスマッチを防ぐための情報収集やオープンキャンパス・応募前職場見 学会の参加を推奨するとともに、参加報告書等の提出を求めるなど有効に活用する手立てを		1		
第3学年		講じる。				
		個人面談等でキャリアパスポートを活用し、本人の個性・適性を活かした進路指導を図る。		1		
		最上級生として体育祭・宇美商フェスタ等の行事に積極的に参加し、成功体験を 通じて自己有用感を高め、人間的成長を促す。				
		自己肯定感を高めるため、生徒それぞれの適性に応じて活躍できる場を与える。				
	上級生としての誇りと自信を付ける。	目標設定や課題解決方法を考えさせ、フィードバックを行う機会を与えるととも に、適切な指導を行うことで、最後まで諦めず困難に打ち勝つ力を育成する。				
		就職・進学を見据え、毎日の学校生活を通して自己管理能力を高める。				
	自ら考え判断し、行動することができる社会人とし	多くの学校行事やキャリア教育を通して、社会人基礎力の向上を意識させ、主体 的に進路実現を果す態度を養う。		1		
	ての基礎能力の育成を目指す。	これまでに身に付けてきた、身だしなみ・礼節、場に応じた挨拶・言動等を学校 行事等で発揮できるよう促す。		1		

評価項目	具体的目標	具体的方策		価(3月)	次年度の主な課題
研修	宇社会で求められる新しい知識や技術を理解し 今	教育センター実施の専門研修へ、各教科1名以上参加する。			<u> </u>
		教科会議や職員研修を実施し、報告・検討を行い、授業へ還元する。			
	実施する。	研修録へ寄稿し、周知する。	$\Box$		
	Level States 11.11.) - #10.00 or level for the book of	教科主任を通じて、公開授業・研究授業に必ず参加してもらう。			
	指導と評価の一体化に繋がる授業研修を実施する。	職員研修で観点別評価を取り扱い、十分に検討する機会を作る。			
	先進的な取り組みを行っている学校の、進路指導のノウハ ウや進路指導の在り方について職員に周知する。	教科会議や職員研修を実施し、学校視察に行った職員、進路指導部と 連携して報告・検討を行う。			
保健環境	いじめを見逃さない許されない環境をつくり、安心 安全な学校を目指す。	学校生活における不安や困り感等を感じている生徒に対し、SCによるカウンセリングを行い、心の安定を図る。			
		特別支援学校と連携し、学期に1回程度学校に訪問していただき、支援の手立ての手がかりを得る。			
	女主な子状を口頂す。	ケース会議等を開き、関係機関・養護教諭・学年間の連絡を密にし、生徒の情報共有を図る。			
		環境美化委員を中心に、採点方式ではない新たなスタイルの美化コンクールの実施を図る。			
	徒を巻き込んだ取り組みに発展させていく。	保健委員を中心に、季節や学校行事に応じた健康管理ができるよう、ポスター等の掲示物を作成する。			
	実社会で求められる新しい知識や技術を理解する。	ホームルームや授業を通して、生徒に副読本を紹介し、ワンヘルス教育について意識付けを行う。			
		事前事後アンケートを活かした企画立案し、教員と生徒・保護者等が一体となり、円滑な運営を図る。			
企画	を促す式典や行事の企画・運営を図る。	式典や集会ではその意義や目的を理解させ、生徒の成長の機会にする。			
	防火・防災に対する環境をつくり、安心安全な学校を目指す。	突然の災害に対応できるよう、本番を想定した防災避難訓練を実施する。			
北層	生徒が主体的に活動し、充実した学校生活が送れるように各分掌等と連携を図る。	文書の記録・管理を行い、各分掌や委員会で活用できるように努める。			
		生徒の希望進路実現や充実した学校生活の実現のため、奨学金の手続きを的確に行う。			
		PTA理事会・委員会との連絡を密にし、各種行事への積極的参加を呼びかけ、連携を強化する。			
	専門性の高い授業を通して社会に貢献できる知識・ 技術の習得を目指し、生徒が目標を持って学習でき る評価を行う。	外部講師(企業や大学)などと連携し、専門性の高い授業を実施する。			
		達成感を得る評価を行い、全商検定1級を卒業時までに取得率80%を目指す。			
商業科	ビジネスに対する望ましい心構えや態度に関し、学校生活を通して、商業高校生としての自覚と誇りを 持たせる。	ビジネスに係る一員として授業中や宇美商フェスタを通してビジネスマナーのスキルアップを目指す。			
		アントレプレナーシップを意識して授業に取り組み、宇美商フェスタでより意識を高める。			
	地元企業や地元自治体と提携し地域を活性化し、地域貢献に努める。	地元企業と連携し、本校オリジナル商品を開発し、地域での販売実習を行う。			
		商業で学んだ知識を生かし、仕入・販売計画を行い、ウミダスミライ(商業施設での販売実習)で販売活動を行うことで、地域に貢献する。			
事務	環境保全実行計画の推進	光熱水費について、職員及び生徒の健康に留意したうえで節減を図る。 両面印刷や裏紙印刷を心掛け、印刷用紙の削減に取り組む。 節電や節約の効果を物品等で職員に示すようにする。			
	学校徴収金の長期滞納の発生防止	保護者に対する納入義務を、文書配付や電話連絡を通じて周知していく。 学年との情報共有を図り、連携して納入を促進させる。 各種奨学金等の紹介をし、保護者負担を軽減させ納入促進に努める。			
	適正かつ迅速な事務の執行	事務室内で情報を共有し協力体制を整え、円滑な事務処理を行う。 電話対応、来客応対等の際に誠意を持って丁寧に対応する。			